令和4年度

高次脳機能障害研究の紹介

国リハの手話研究

ー基礎研究から応用までー

日本手話の記述文法の作成

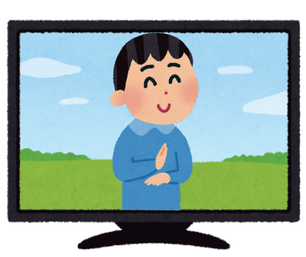
背景：日本手話は、ろう者コミュニティで自然発生した、日本語とは異なる音韻・文法・談話構造を持つ言語です。これまで、部分的な研究はあったが、全体像が示されていませんでした。

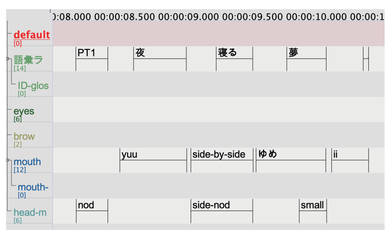
目的：日本手話がどのような言語かを示す資料を映像付きで作成することです。言語保存のための基本セットとなるのは、語彙・文法・談話資料です。

・例文映像を撮って、アノテーションを付与しています。
・基本となる音素（手型、位置、動き）のうち、手型一覧を作成しました。



撮影 ⟶ 分析・保存





アノテーション

子どもの手話の研究

背景：聴覚障害児にとって手話が重要なのは、仲間と対等なコミュニケーションができ、社会的スキルの健全な発達が見込まれるからです（Humphries et al. 2014）。しかし、日本手話で育つ子どものコミュニケーション発達の経路や特徴について明らかになっておらず、「社会的スキル」を評価する手段がありません。

目的：手話を第一言語として育つ子どもたちのコミュニケーション発達の特徴を明らかにします。

・伝達ゲームの様子を分析して記述し、特徴を調べます。
・年齢が上がるに従って、何が変わるか、説明方略が変わるとしたら、どのように変わるのかを調べます。



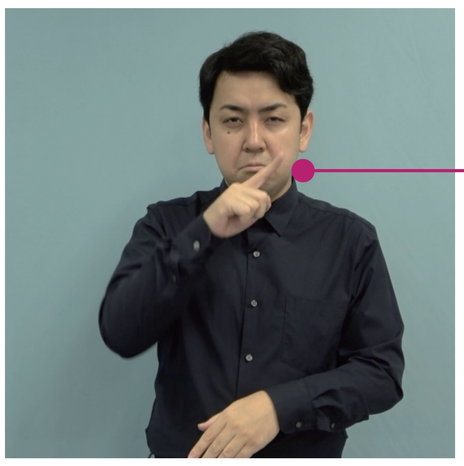
伝達ゲームの様子

手話の脳のメカニズムの研究

手話を見るとき、どんな脳の活動が見られるかを調べます。とくに非手指要素と呼ばれる顔の動きに着目し、マスクをつけたときとつけていないときの手話を見たときの脳活動の違いを fMRI で計測します。



MRI装置



マスクが<u>ない</u>とき

口の動きが見える

- 日本語の借用口型
- マウスジェスチャーが見える



マスクが<u>ある</u>とき

口の動きが見えない

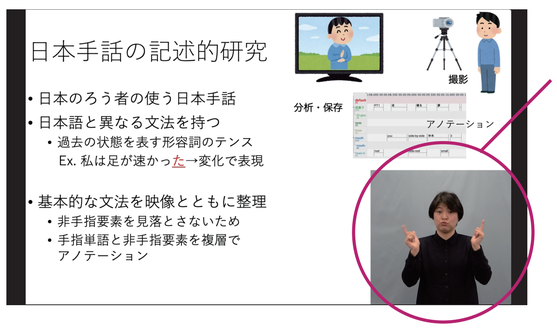
- 予想で補う？
- 固有名詞や数字がわかりにくくなると予想

手話による翻訳・通訳の研究・実践

日本手話を使う人は日本語とのバイリンガルだが、わかりにくいときだけ手話動画で意味を確認したいという人もいます。



聴覚障害者向けアンケートをオンラインで実施したときに、質問文に手話動画が表示されるようにしました。



昨年度（令和３年度）オンライン開催された国リハオープンハウスに、ろう通訳者による手話翻訳を付与し、公開しました。

今後の展望

日本手話の言語学的な研究を通して、日本手話がどのような言語なのかを解明するとともに、第一言語としての発達の指標や、第二言語として手話通訳者を養成するのに貢献します。また、手話での情報を増やし、それを言語学的な研究の資料とすることで、実際の言語使用に基づく記述的な言語研究を展開します。

研究代表者：国立障害者リハビリテーションセンター研究所
脳機能系障害研究部 高次脳機能障害研究室　高嶋由布子　takashima-yufuko@rehab.go.jp